



KAGOSHIMA Y'S MEN'S CLUB

2023. **5**月号

鹿児島ワイズメンズクラブ No. 389

- 国際会長：K.C.Samuel [インド] フェロウシップとインパクトで次の100年へ
Into the next 100 Years with FELLOWSHIP & IMPACT
- アジア太平洋地域会長：Shen Chi-Ming [台湾] 新しい時代とともに、エレガントに変化を
Elegantly Change with New Era
- 西日本区理事：田上 正 [熊本むさし] 原点を知り将来に生かす!
Know the origin and utilize it in the future!
- 九州部部長：今村 格 [熊本クラブ] 熱意をもって、自クラブ活性化に貢献しよう。
Let's contribute to activate your club with enthusiasm.



SDGsに取り組みながら、クラブの未来を創造しよう!
Let's create the future of the club while working on the SDGs!

鹿児島クラブ会長
松永 英明

「宝塚クラブ創立35周年記念例会」の報告

鹿児島クラブ 松永 英明

5月21日曜日に宝塚クラブ創立35周年記念例会がソリオホールにて開催されました。宝塚クラブさんとは2018年にDBCを結んでいますので、中堀ワイズと私がお祝いに駆けつけました。第1部では、作家でジャーナリストの弓狩匡純(ゆがりまさずみ)氏をお迎えしまして「過去に学び、未来を描く」をテーマにお話をしました。広島に原爆が投下されてから78年になります。その時の状況を被爆者から高校生たちが証言を聞き、それを正確に描いた絵を見ながらお話をさせていただきました。第2部は、広島の劇団の子どもたちが広島に投下された原爆を題材に戦争や核兵器の恐ろしさ、凄惨さ、悲しさを創作劇で演じ、平和の大切さと戦争のない未来を願って歌を歌ってくれました。懇親会は場所をがんこ宝塚苑に移動し、お祝いに駆けつけた60名を超えるワイズメン方々と交流を深めました。本当に宝塚クラブさんらしい素敵な記念例会でした。会員の皆様のおもてなしにも感謝いたします。



TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT



SDGsに取り組みながら、クラブの未来を創造しよう!
Let's create the future of the club while working on the SDGs!

日中は汗ばむほどの陽気となり、夏の近いことを実感する季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。日頃のワイズダムへのご奉仕に心より感謝申し上げます。

今年のGWは、楽しく過ごされましたでしょうか。私は、またまたゴルフ三昧のGWでした。久しぶりのゴルフでほとんどぶっつけ本番状態。いいスコアが出るわけもなく、リフレッシュどころかストレスと筋肉痛のGWとなりました。改めて毎日毎日コツコツと、日頃から練習しておけばよかったと反省と後悔のGWでした。

ワイズ活動も同じことのように感じています。日頃からコツコツとアンテナを張り巡らし情報を得て行動をおこす。簡単なようですが社会貢献、奉仕活動と意識しないとなかなか出来るものではありません。ワイズの理念に基づき活動を続けていく難しさを感じています。各クラブのブリテン、仲間とのコミュニケーションを通して絆、信頼関係。そして、各事業を続けること、受け継ぐことの大変さを会長をさせていただいたことで改めて痛感しているところです。会長職は基本、単年度です。限られた任期の中で、ワイズの活動理念をもとに今期の活動計画を立て実行する。歴代の会長の皆様は、紆余曲折ありながらも鹿児島クラブの歴史を築いてこられました。色々なことを自分なりに整理し、次期会長の徳田ワイズに引き継いでいただけるように準備をしていきたいと思っています。

来月の10、11日は熊本に於いて第26回西日本区大会が開催されます。その中で、京都ウェルクラブさんとのDBC締結式も行われます。本当に嬉しい限りです。現在、鹿児島からは5名の参加になりますが、楽しんできたいと思います。

あと残り1ヶ月の任期となりましたが、責任を持って職に全うしたいと思います。最後の最後までご協力のほど宜しくお願い致します。

皆様が、ますますお元気でご活躍くださいますようお願い申し上げます。



原点を知り将来に生かす!
Know the origin and utilize it in the future!

一カ月前、理事通信4月号の原稿を出す頃は、第3回役員会の準備に追われていました。今期の集大成となる議案や来期に繋がる協議案を抱えていたからです。そのような中、3月25日の京都トゥービークラブの25周年記念例会は大いに気分転換となりました。受付に参加役員の幟が立っていました。私の幟は2年前のまだ若々しかった頃?の顔写真入りです。喜びも束の間、オープニングエピローグを振られたので、慌てて原稿を作りました。

3月28日は沖縄新風(みーかじ)クラブの設立総会がWEBで開催されました。何と私のインターネット環境が悪くなり、映像が途絶えたのです。やっと最後につながり、残り時間僅かで祝辞を申し上げることができました。

4月1-2日の第3回役員会では、区費改正やワイズ戦略委員会、ワイズYMCAパートナーシップ委員会、西日本区サポートファンドに関する議案などが審議され承認されました。また協議案としてロースターの電子化、法人化の検討などが出され多くのご意見をいただきました。4月15日には奈良傳賞資格審査委員会をWEB開催し、西日本区大会で奈良傳賞を差し上げる準備が整ったのは幸いでした。

4月19日には東西日本区理事連絡会議を西日本区が主幹となりWEBを開催しました。東日本区のYMCAやユースとの交流、法人化への取り組みの経緯やその問題点など学ぶことが多かったと思います。

この原稿を出すまでに、西日本や東西日本区、熊本地区ワイズやYMCAで行った会議がWEB会議を含め15回ほどありました。特に理事キャビネット+事業主任ミーティングでは西日本区大会での表彰に関する情報交換もあり、長時間にわたりました。

4月になっても新しい会員を次々に迎えていることは感謝です。一方、今期一杯で活動を閉じるクラブや退会の意思表示をされている会員もあり寂しさを感じています。

皆様と共に6月10、11日の西日本区大会でワイズの友情を確かめ合いたいと思います。



今月の樹 ミヤマキリシマ

半落葉広葉樹の低木で、高さは1-2メートル(m)程度になる。枝は密に分枝する。葉は小型で、長さ8-20ミリメートル(mm)の長楕円形をしており、葉に毛がある。夏に出る葉の一部は、落葉せずに冬を越す。



花期はおおむね5月下旬から6月中旬。枝先に2-3個ずつ花をつけ、直径20-30mmの漏斗形で先は5裂し、花色は紅紫色、朱紅色、桃色、淡紅色、白色などが見られる。満開のころには、斜面をいっぱい埋め尽くすように咲いて見事な景観になる。1866年5月に坂本龍馬は新婚旅行で霧島を訪れ、高千穂峰に登山をしているが、その時の様子を土佐の姉、乙女に手紙で「きり島つゝじが一面にはへて実につくり立し如くきれいななり」と書き送っている。当時はまだこのツツジの名は無く、1909年に霧島を訪れた、植物学者の牧野富太郎が『ミヤマキリシマ』と名付けたのである。現在、NHK朝ドラの主人公のモデルとなったのが牧野富太郎である。このツツジは火山地帯の環境の厳しい場所に適応、進化した植物で九州各地の火山地帯の阿蘇山、雲仙岳、九重山、鶴見岳で見られる。牧野先生のお蔭で、阿蘇に咲こうが雲仙に咲こうが「ミヤマキリシマ」なのである。

私は今年は5月20日に高千穂峰に登り、ほぼ満開の花々を見る事が出来た。火山の山肌がピンクの絨毯の如く染まる様は実に素晴らしい。中岳に始まり、高千穂峰、韓国岳、えびの高原と時間差で咲いてゆく。

4 April 定例会報告

日時：令和5年4月25日(火) 19:00～20:30
場所：鹿児島市国際交流センター
出席者：8名
司会者：園屋

5 May 企画例会報告

日時：令和5年5月9日(火) 19:00～20:30
場所：Zoom
出席者：神村、中堀、徳田、大平

4 月 例 会 の 記 録	クラブ在籍者	10名
	出席者	8名
	メネット	0名
	コメント	0名
	ゲスト	0名
	ビジター	0名
	メイクアップ	1名
	4月出席率	90%

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



今月の聖句

あなたがたは、朽ちる種からではなく、朽ちない種から、すなわち、神の変わることのない生きた言葉によって新たに生まれたのです。

ペテロの手紙 1章 23節

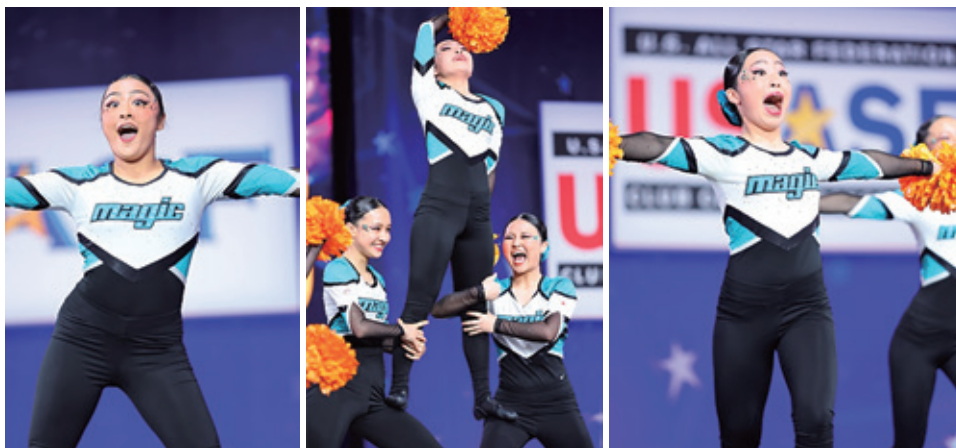


鹿児島YMCAチアダンススクール CAST Magic Faith世界2位！！

オリンピック正式加盟したICU (International Cheer Union)傘下で、クラブチームを統括する国際組織IASF が主催する、クラブチーム世界選手権大会「The Dance Worlds 2023」は、世界40か国から約12,000人が参加する大会で、2004年から開催されています。この大会は、チアリーディング部門、ヒップホップ部門、ジャズ部門、そしてチアダンス部門で構成されており、チアダンス単体で見るとこれ以上の規模の大会は存在しません。各部門とも中学生編成、高校生編成、オープン編成(高校生以上)と年代別で競い合い、人数による競技性の不公平感を無くすために、同一編成内で15人以下をSmall、以上をLargeに分けて開催されます。私たちが参加したSenior編成(高校生) Pom部門(チアダンス部門のこと) Smallというの、15名以下の人数で編成された高校生チアダンスチームのことです。日本では、受験や部活動、塾などによって、高校生年代までチアダンス競技を続けることが難しく、日本から出場するチームで16人以上のチーム編成で臨むチームはひとつもありません。海外チームも似たような状況があり、必然的にこのSmallに参加チームが集中することによって、今大会でも最もエントリーが集中する競争の激しい部門となりました。今回、本場アメリカを中心に世界各地から27チーム、日本から推薦された私たちを含む全6チームの合計33チームがエントリー。準決勝からは33チーム中、成績順により半分17チームが決勝に進出。決勝の舞台を終え、見事初出場でシルバーメダリスト、準優勝という奇跡的な好成績を収めることが出来ました。メンバーたちから出てきた言葉は、自分たちの力だけで

これなかった、応援して下さった方々へ良い報告になってほっとしたとありました。

帰国後は、県知事を表敬訪問したり、各メディアの取材を受け取り上げて頂きました。6月3日(土)の第2回鹿児島YMCA大会にてメンバーの演技と共に改めてご報告させていただきます。



鹿児島YMCA 大平 さやか